

真下 紀子

発行
真下紀子事務所
旭川市3条16丁目7号
TEL 0166-20-0808
FAX 0166-20-1616



予算要望

鈴木新知事へ地方路線の維持・存続要望 国保引き下げに尽力をカジノと原発のない北海道へ

24日、日本共産党道議団は、鈴木直道知事が就任後初めて編成する政策予算等に対して要望・意見交換を行いました。知事は、「国保財源を国に求める」「原発は国の動向を注視する」などに応じ、高橋道政を踏襲する姿勢が鮮明になりました。

JRへの自治体負担否定せず

地方路線について「被災した路線の早期解決を図る」とのべた鈴木新知事に、真下紀子議員は「廃線による解決が、路線維持の解決が判然としない」とのべあらためて質問しました。

知事は「私は廃線論者ではない。夕張線は10往復の代替バスを確保したうえで地域と十分話し合っただけ」と強調し、運賃の値上げを説明してきた島田修JR社長に「道民の中に不安がある。丁寧な説明を求めた」とのべるにとどまり、自治体負

国保への支援は国任せ

大幅な引き上げが想定される国保料。払いやすい水準にするため一般会計からの繰り入れ、子ども均等割り軽減などの決定権は市町村にあります。市町村の決定を尊重することを求めました。

知事は「国保の窓口を経験した。市町村毎に違う保険料の平準化は必要。財源は国に求めていく」と国任せの答弁で、保険者となった道の自主的な姿勢も示されませんでした。

真下議員「環境生活」 少子高齢 地方路線」3委員会に

菊地議員「経済」 「新幹線・総合交通」、宮川議員「保健福祉」「食と観光」



臨時道議会で、議長・副議長、委員会の構成が決まりました。真下紀子議員は、環境生活常任委員となりました。環境と道民生活、気候変動対策や女性の活躍、アイヌ問題など多岐にわたる分野を担当します。共産党道議団の配置は15年ぶりです。議運はオブザーバーとして出席できます。

日本共産党道議団は3議席、4人の会派要件に届かず、諸派となり、会派代表質問権がなくなりました。

一般質問は年間、20分×3人

常任委員会・特別委員会は、委員として所属、理事会はオブザーバーです。下の表を参照ください。

議会運営委員会は、委員会・理事会ともオブザーバーです。

定数が100に減少し、予算・決算委員会は委員配分されます。

	常任委員会	特別委員会	議員団構成
真下議員	環境生活	少子・高齢社会対策 地方交通問題調査	議員団長
菊地議員	経済	新幹線・総合交通	幹事長 議会運営委員会 (オブザーバー)
宮川議員	保健福祉	食と観光	政策審議会長 広報委員

丸山衆議「戦争発言」に批判決議!

戦争で領土奪還、憲法違反発言に批判拡がる

5月11日、北方4島へのヒザなし訪問団に参加した丸山穂高衆議院議員が、戦争による北方領土返還に言及した問題で、道議会は22日、丸山衆議の言動を批判する決議を全会一致で採択しました。

強い憤りを禁じ得ない

国後島へのヒザなし交流訪問団の一員として参加した丸山穂高衆議が元島民の訪問団長に「戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか」「ロシアが混乱している時に取り返すのはOKですか」と迫り、

「戦争をしないとどうしようもなかないですか」と戦争による領土奪還を示唆する発言を繰り返したことが発覚しました。

「戦争などという言葉を使いたくない」と抗議した訪問団長にしっかりと迫ったものです。

道議会の決議は、「外交交渉以外の手段での北方領土返還実現を示唆する発言がなされたことは、両国の友好関係に影響を及ぼしかねない極めて憂慮すべき事案」「元島民はもとより多くの道民にとっては到底受け入れがたく、強い憤りを禁じ得ない」と抗議しています。

「維新」の責任重大

丸山氏は「戦争発言」の後も政府関係者の制止にもかかわらず、ロシア人女性のいる店に行くと言われ、夜間外出



戦争で奪われた領土の早期返還を望む元島民・道民の願いに真っ向から反する戦争発言、国際紛争を解決する手段として戦争放棄を定めた憲法9条に反し、99条の憲法擁護・遵守義務に反する許しがたいものです。丸山氏は直ちに辞職すべきです。

地方自治活かした道政を刷新姿勢 見えず

第2回定例道議会で鈴木知事が提案する補正予算にも注目が集まっています。24日、共産党道議団から知事への予算要望の席で真下議員は、「農業、中小企業など本道の基幹産業が減少する中、道庁の役割は重要。3Rといわれる北海道の重要課題、IRとJR、原発の再稼働に加え、4つ目のRは領土問題。再生団体の市長として地方自治に歯がゆい思いもあったでしょうから、国に物申す立場で尽力いただきたい」と要望しました。

鈴木知事は、カジノを含むIR誘致、原発再稼働問題も、国の動向を注視するというこれまでの道政踏襲の立場でした。道民意見を反映した道政運営を期待すると伝えました。



第1回臨時議会に副知事の人事案が提案され刷新人事かと注目されました。

しかし、高橋道政を支えた幹部職員ばかりです。民間に天下りしていた元農政部長、国から出向中の総務部長と公営企業管理者を昇進させただけで、これでは選択と集中のもと、住民福祉や公共施設の維持・管理を縮小させる一方、新幹線や旧開発道路に財源を集中させ、カジノ誘致に前のめりの高橋道政の踏襲であり、目新しさもありません。

党道議団は、採決で反対しました。

ほっと一息

「上げるなら消費税より小遣いを」

上がったと報道されたGDP、消費が冷え込んで輸入が減ったのが原因と聞くと、さもありません。実質賃金は下がり、家計消費も冷え込んでいるときに、消費税10%にしてはならないと、消費増税を前提にした条例改正の専決処分報告に反対、菊地議員が討論しました。

最も確かな経済政策は10%にしないことです。逆に減税したほうが経済効果は抜群ではないでしょうか。

「上げるなら消費税より賃金を」にあやかって「上げるなら消費税より小遣いを」、懐温める政策が必要です。

